

認知症医療支援体制検討部会（第1回）の主なご意見

1 人材育成に係る現状の課題及び方向性・改善策等について

●かかりつけ医認知症研修は、もう少し専門的なものが欲しい。講習会の内容をDVDにして医師会で夜間にやるといった取組を実施することで行けない人が行けるようになってくる。日本医師会のかかりつけ医の講習会がDVDになっており、認定されるシステムをとっている。同じような形で認知症疾患医療センターでも実施すれば、いろいろな人が受けられるのではないか。

●かかりつけ医認知症研修のグループワークを行う際、地区医師会の先生方に協力をお願いしている。おそらくそれが多くの参加者を呼び込む呼び水になっている。来る人と来ない人が決まってしまうというところもあるので、そこは考えていかないといけない。かかりつけ医認知症研修会は、地域連携型の認知症疾患医療センターでもできるところがあると思う。また、他の二次医療圏の認知症疾患医療センターのかかりつけ医認知症研修の工夫も知りたい。

●かかりつけ医の参加者を増やすという点で新規開業の先生や新規訪問診療の先生などのリストが重要な情報源になる。また、介護保険認定審査員にもかかりつけ医認知症研修の受講を勧めている。認知症疾患医療センターと地区医師会との関係構築が参加者を増やす一つのアシストになる。

●研修会で工夫してきたこととしては、区役所主催の医療連携会議で、ケアマネジャー、介護職、医療職が主となって研修会を考えて、グループワークで地域包括支援センターの圏域をつくり、かかりつけ医も加わる形で実施した。そこで、交流会のような顔見せの会をつくったことで連携が深まった。

●勉強としての知識というのはある程度浸透しやすいが、地域でどうやって還元し連携していけばいいのかという実践的な動きがまだ出来ていない先生が多い。人材育成においては、地域でのかかわり方、いわゆる介護と医療の連携推進、この推進をうまく人材育成の場に盛り込み実践的なものにし、それを各地域で還元できるといいと思う。

●地区では認知症サポート医が、日頃、地域で何をしたいのかというところで悩んでいる。各区市町村が認知症サポート医の連携をうまく束ねるような形をしていくというのは、非常に重要だと感じている。

2 人材育成に係る支援拠点の必要性について

●（地域拠点型認知症疾患医療センターが実施する研修について）所定のカリキュラムプラスアルファの補足をするなどの努力はしているが、ほかの拠点型センターとの足並みや質的なものについてもそろえていく必要もあり、認知症支援推進センターのほうで、テキストのマイナーチェンジ、質の向上をしていただいております、そういう拠点があって認知症疾患医療センターの研修を支えていただいているということを実感している。

●認知症疾患医療センターの職員研修は、非常に需要が大きく、満足度も非常に高い。認知症疾患医療センターは、地域で認知症の医療等にかかわる人材の育成に関与するということになっているわけだが、そこで働いている人の研修が担保されていないというのが非常に問題であり、東京都のこの研修は非常に先駆的である。

●拠点型認知症疾患医療センターが実施するかかりつけ医認知症研修を認知症支援推進センターがある程度統括して、大きな枠でプログラムを形成するといったやり方があってもいい。

●地域の実情とかニーズにあわせたということだけではなくて、東京都が行うという意味では、ある意味一つ筋が通っていないといけない。一貫性もないといけないし、認知症支援推進センターが統括をするという役割は必要。

●研修に関しては、うまくいっているところのアイデアやヒントの情報共有、成功事例を共有するようなことが有効であり、それは恐らく認知症支援推進センターに担っていただかないといけない。

●認知症支援推進センターが何らかの形でそれ（研修）を統括するとか、あるいは情報を共有するとか、支援拠点が担っていかなければいけないだろうというのは委員の皆様お感じになったところだろうと思う。

●そもそも認知症疾患医療センターの職員はどこで研修をするんだとか、あるいはその地域の認知症支援体制づくりのリーダーである認知症支援コーディネーターなどどこで研修するのかとか、あるいは地域医療連携の推進役の認知症サポート医をどうやって継続的に育成していくのかとか、いろいろなことをカバーしないといけない。あるいは全体のカリキュラム、プログラムをどこでつくるのかということもある。認知症支援推進センターというのは、そういったことをカバーするために機能しているということで意味があると思う。

3 島しょ地域及び認知症疾患医療センター未設置地域への支援をどのように行っていくべきか

島しょ部については、人的な理由などさまざま地理的な理由で認知症疾患医療センターを配置できないので、これをカバーするために認知症支援推進センターがサポートしていかうということは論理的には正しい。今後の認知症支援推進センターの事業として島しょと檜原村を含めて、認知症疾患医療センターを配置できていないところの認知症支援体制づくりをサポートしていく。具体的には人材育成とともに初期集中支援チーム等がそれぞれの町村で動き始めており、こういうものを支援していかうというのが考え方としては正しいのではないかなと考えている。

4 その他

認知症地域支援推進センターは、実はマンパワー的には非力。やれる範囲でしかやれないという前提でやっているということがあり、今後これをどうするかということを考えていかななくてはいけない。